
おならの王様

ぱじゃまくんくん男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おならの王様

【Nコード】

N1755T

【作者名】

ぱじゃまくんくん男

【あらすじ】

王様がおならをしてみました

昔々、宮殿で隣の国を攻め滅ぼす計画を立てていたとき、王様がぶづつとおならをしてみました。

宮殿の中はしーんと静まり返ってしまいます。お妃さまも大臣も將軍もお仕える人たちはみーんな、口を閉ざしました。

王様は、や、やばっ、と、思い、大きな声を出しました。

「だ、誰だ！ 今、お、おならをしたのは！」

お仕える人々は皆一樣にして、王様にしらりと目を向けました。「だ、誰だ！ だ、大臣、お、お、お前だな！ けしからん！ なんと、けしからん奴！ 隣の国をぎったんぎったんのめったんめったんにしようって皆で話し合っているときに、おならをするとはけしからん！」

王様に指を差された大臣は驚いて、あわてて首を振りしました。

「わ、私ではありません！ 断じて私では。あっ、しよ、將軍！

キミだな！ 確かキミはいつも芋を食べているじゃないか！」

「しよ、將軍か！ けしからん！」

王様と大臣に指を差された將軍はたまったものではありません。

「ち、違います！ 私は確かに芋をいつも食っておりますが、たまにはコロツケにするときもあるのです！」

「意味がわからん！ お前がやったんだな！」

「私ではありません！ そ、そういえば、大臣のほうから匂いが、

く、くさっ！ 大臣！ あなたですね！」

「な、なんですと！ 私から匂いがするわけが！ そもそも、匂いは王様のほうからするではないですか！」

あっ。大臣は両手で口を押さえ、王様をちらりと見ました。

王様はわなわなと震えています。

お妃さまが鼻をつまみながら、王様に向けて扇子をパタパタと動かしています。

「お、王様！」

と、大臣は、まあまあ、落ち着いてくださいという意味で、両手を王様に向けて出しました。

「まあまあ、落ち着いてください。誰にも間違いはあるものです」「き、貴様ア……、わ、わしが、このわしがおならをしたと言つのか！」

「ち、違います！ これは、その、私の間違いでありまして、その、なんというか、王様がおならをしたと間違えて言ってしまったことに対してでありまして。多分、そうですね、おならをしたのは、將軍ですね、やっぱり」

「何を言っておられるのか！ さっき、大臣は王様がおならをしたと言つたではありませんか！」

あつ。將軍は両手で口をおさえ、王様をちらりと見ました。

王様はふるふる震えています。

「王様！」

と、將軍は、まあまあ、落ち着いてくださいという意味で、両手を王様に向けて出しました。

「まあまあ、落ち着いてください。誰にもおならはつきものです」「き、貴様ア……、わ、わしが、このわしがおならをしたと言つのか！」

「いえっ！ そういうつもりでは！ そ、そうですね！ きつと、隣の国の王様がしたんです！ 隣の国の王様のことを私は言ったのです！」

すると、王様は、

「うむ」

と、落ち着きを取り戻し、玉座に腰掛けました。

「多分そうだ。わしもそうなんじゃないかと思っていたんだ。おい、お妃もそう思っただろう」

「屁こきジジイ」

……。

「ま、まあ、そういうことだ。作戦を練ろつか、うん」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1755t/>

おならの王様

2011年11月17日06時46分発行